



せき ひろ かず  
**関 浩和**

小学校教員養成特別コース  
教授

このページでは日本学術振興会の科学研究費助成事業による助成を受けた研究を紹介し、同助成事業は、全ての分野の「学術研究」を格段に発展させることを目的に、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究などに分かれており、基盤研究は、一人または複数の研究者が共同で行う研究が対象。研究期間は3～5年です。

# 研究レポート

## 危機対応マネジメント育成に関わる 社会科カリキュラムと授業評価スタンダード開発研究

(平成25～27年度科学研究費助成事業・基盤研究Cに採択)

**日** 本における危機対応への意識は年々高まっています。これまで、石油危機や湾岸戦争などの国際的相互依存の深化の中で起こる危機をはじめとして、震災や風水害などの大規模自然災害、船舶・飛行機事故や原子力発電所などの重大事故、暴動やハイジャック、大量殺傷型テロなどの重大事件、日本への武力攻撃など、緊急事態に対してその対応力が求められています。しかし、阪神・淡路大震災と東日本大震災以降、日本の危機対応には数々の課題が浮き彫りになっているのも事実です。この危機対応のために必要なのが危機対応マネジメントの視点であると考えています。マネジメントとは、目標や目的を明確にして、必要な要素を分析し、対応していくことです。本研究では社会科授業において、危機対応マネジメントを「図」のフローで捉えて、子どもの危機対応マネジメント育成に関わる社会科授業の原理と構造を解明し、社会科カリキュラムの基盤となる授業モデル

### 【図】危機対応マネジメントのフロー

**リスク・マネジメント**  
risk management  
危機事態の発生予防するためのリスク分析方法



**クライス・マネジメント**  
crisis management  
危機事態の発生後の対処方法

**ナレッジ・マネジメント**  
knowledge management  
個々の持つ知識や情報を組織全体で共有、体系的に有効活用する方法

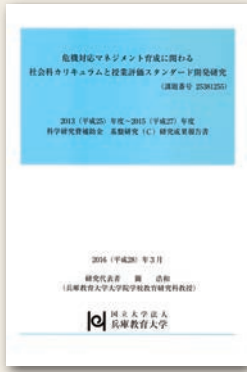
【写真】は、ゼミ生である  
また、教職大学院教育実践高度化専攻・小学校教員養成特別コースの教育実践研究（アクション・リサーチ）において、研究室に所属しているゼミ生の教育実践活動に着目して実践者の行動を観察して、その結果に基づいて内省し、社会科授業評価スタンダード開発につなげました。

【写真】は、ゼミ生である  
また、教職大学院教育実践高度化専攻・小学校教員養成特別コースの教育実践研究（アクション・リサーチ）において、研究室に所属しているゼミ生の教育実践活動に着目して実践者の行動を観察して、その結果に基づいて内省し、社会科授業評価スタンダード開発につなげました。

広原康平氏（現川西市立多田小学校教諭）が実地研究において加西市立下里小学校で研究授業を実施している場面です。教師側からのトップダウンの授業構成ではなく、子どもの興味・関心を基にしてボトムアップ的にトピックを次々と展開させていくことで学習問題に迫っていく仮説推論的な学習方法論の有効性と、教員の専門職のスキルとして①授業計画力②授業展開力③子ども理解力④授業省察力を位置付け、社会科授業評価スタンダードを開発しました。



【写真】研究授業：第5学年社会科単元「自然災害をふせぐ」  
授業者：広原康平（現川西市立多田小学校教諭）



研究報告書